

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名	白石町立有明西小学校
-----	------------

1 前年度 評価結果の概要	・年間通して縦割り活動(縦割りグループ遊び、縦割り掃除)を実施し、異学年との交流および相手を思いやる心の育成につながった。来年度も継続して実施したい。 ・相手よりも先に元気に気持ちのよいあいさつができる児童が増加した。地域でもあいさつするようにあいさつの輪を広げていく。外遊びの推進については児童会活動をいかして取り組ませたい。 ・児童が主体的に地域と関わっていくことができるように場と機会を保障し、それぞれの活動のねらいを意識した取り組みを実践していきたい。
------------------	--

2 学校教育目標	人との関りを大切にしながら、よく学びよく遊ぶ、幸せいっぱい の 西小っ子 ～ トライ&エラー&チア～
----------	--

3 本年度の重点目標	トライ&エラー&チアー ①思いやりの心をもってかかわろうとする児童の育成を目指す。 ②自ら気付き進んで取り組む児童の育成を目指す。 ③やる気を持って学び、高め合う児童の育成を目指す。
------------	--

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
---------------	------	--------

(1)共通評価項目									
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	○児童がわかる、できると思う授業の充実	○「授業づくりのステップ123」で、全項目において、ステップ3を目指し、「めあて」「話し合い活動」「振り返り」はステップ3を達成した教員が80%以上。 ○「授業が分かるようになった」と答える児童の割合85%以上。	・教師が「授業づくりのステップ123」を意識した授業づくりを心がける。特に、児童が話し合う必然性が見られるような問題提示や発問、場の設定を工夫することで、自分の考えを話すことができる児童が増え、学び合う姿を高めている。 ・教科書を読むことができてはいるが、文章理解の高まりが不十分なので、キーワードや問われていること、図や表などに書き込みをさせる活動を継続していく。 ・各教科の大切な用語は、確実に習得できるまで、繰り返し指導をしていく。	B	・「授業づくりのステップ123」を意識した授業づくりについては、「めあて」「振り返り」はステップ3を達成した教員が83%と達成しているが、「話し合い活動」は40%と低かったので、話し合い活動を授業の中で仕組むように意識していく必要がある。 ・「授業が分かるようになった」と答える児童の割合89%と目標を上回った。また、国算の単元テストの知識技能でも、ほとんどの学年が平均80点以上であった。今後も教師が教材研究をしっかりと行ったり、指導方法を身に付けながらわかる授業を目指していく。	A	・「授業づくりのステップ123」を意識した授業づくりについては、「めあて」「話し合い活動」「振り返り」ともステップ3を目指し、授業を行っている教員が90%であった。特に、「話し合い活動」を授業の中に仕組むように意識して取り組んだ。 ・「授業が分かるようになった」と答える児童の割合94%と目標を大きく上回った。保護者アンケートでも96%の回答だった。また、国算の単元テストの知識技能でも、ほとんどの学年が平均80点以上であった。	A	・今の時代にはパソコンやタブレットを扱う技能の向上は必要であるが、その反面、紙に文字を書くことや本を読むこと離れが進まないか心配である。今後も文字を書く習慣や本に親しむことができるように取り組んでほしい。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「なかよしファミリータイムや縦割り掃除で協力して活動することができた」と回答をする児童85%以上。 ○「自分や友達の良いところをみつめて、友達と仲良くすることができている」と回答をする児童85%以上。	・学校行事、縦割り活動、委員会活動等の中で、他者への「思いやり」を意識した取組を行う。 ・特別の教科道徳等と関連させた人権集会や総合的な学習の時間等と関連させた人権・同和教育を実施する。	A	・縦割り掃除や縦割り遊びでの協力で肯定的な回答をした児童は98.8%だった。上級生を中心に、異学年の協力が図られている。 ・「自他のよさを見つけて友達と仲良くできている」に肯定的に回答をした児童が95.8%だった。「ほかにカード」の取組については、学年間での取り組み方には違いがあるようなので、今後ますますの充実を図ってきたい。	A	・「縦割り掃除や縦割り遊びで、他の学年の友達と協力して活動できたか」という質問に肯定的に回答した児童は、全校で98%だった。上級生も下級生も互いに相手を思いやる心が育っている。 ・「友達の良いところを見つけて仲良くできている」に肯定的に回答した児童は、全校で94.2%だった。「ほかにカード」の取組や道徳、学級活動に加えて人権集会などの全校的な取組の成果だと考える。	A	・異学年交流で上学年は下級生の面倒を見ることがや活動のお世話をしたり、下級生は上級生の言うことを聞き集団の一員として活動したりとそれぞれの役割を果たし協力できている。
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等)について組織的対応ができていると回答した教員85%以上	・職員連絡会の際に、気になる児童とその対策について話し合う機会を設け、いじめの未然防止・早期発見・早期対応・再発防止に努める。 ・心のお天気や生活アンケート等を定期的に実施し、児童の様子を把握し、いじめの早期発見・早期対応に努め、情報共有を行う。 ・教育相談週間を設定して、児童の理解を深める。	A	・いじめの早期発見、早期対応等組織的に対応することができていると回答した職員は100%でどの職員もいじめ対策を意識して取り組むことができていた。また、保護者の回答は、96.5%と高い評価をいただいた。これは、定期的な情報共有ができていることと、担任をはじめ、日ごろから児童に対する職員の適切な声掛けができている結果だと考えられる。しかし、いじめはいつ起きるかわからないため、今後も継続して情報共有を続けていく。	A	・いじめの早期発見、早期対応等組織的に対応することができていると回答した職員は前回同様100%と同じだが、前回より「よく当てはまる」と回答した職員の割合が高くなった。また、保護者の回答は、96.1%で9割を維持している。前回に引き続き、定期的な情報共有ができていることと、担任をはじめ、日ごろから児童に対する職員の適切な声掛けを継続している結果だと考えられるこれから継続して情報共有を続けていく。	A	・保護者や児童のアンケート結果を見ても、大きないじめ事案がなく安心した。学校が色々な手立てを取ることに成果だと感じる。 ・重大ないじめ事案が発生した場合に、いじめ防止対策委員会の委員としてどのように取り組んでいけばいいのかわからないので、細かい動きのマニュアルが欲しい。
	●◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒90%以上 ●「将来の夢や目標を考えている」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上	・行事や学習において、目標をもたせて活動させ、活動後には振り返りを行い、児童の成長や頑張りを認める場を設ける。 ・上学年では、2分の1成人式や卒業式、ゲストティーチャーによる講話「志教育」の取り組みにおいて自分の将来について考えさせる。また、下学年では、どんな自分になりたいのかを道徳や学活において考えさせる。	A	・「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒が92%と目標を上回った。これは、授業や行事等で、目標をもたせて活動させ、振り返りの時に児童の成長や頑張りを認めることで、本人の自信や意欲へとつながった。 ・「将来の夢や目標を考えている」について肯定的な回答をした児童生徒87%と目標を上回った。これは、道徳や学活などにおいて、将来について考える機会を意識して取り組んでいるからだと考えられる。	A	・「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒が87%と目標を下回った。授業や行事等で、目標をもたせて活動させ、振り返りの時に児童の成長や頑張りを認める場を行っている教員は100%なので、児童への伝わり方を工夫していく必要がある。 ・「将来の夢や目標を考えている」について肯定的な回答をした児童生徒87%と目標を上回った。これは、道徳や学活などにおいて、将来について考える機会を意識して取り組んでいるからだと考えられる。	A	・にしきえ祭りや6年生を送る会の発表の様子から、子どもたちが生き生きと活動している様子が見られ、目標をもって活動していることが感じられた。
●健康・体づくり	●「運動習慣の改善や定着化」	●授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童生徒60%以上 ○授業以外の休み時間や放課後等で体を動かしていると回答した児童生徒80%以上	・昨年度同様、教師も週に一度、外に出て児童と一緒に遊ぶ取り組みを継続する。 ・スポーツ祭りや、マラソン週間等の体を動かすイベントを企画し、児童が運動する機会を設定する。	B	・昨年度同様、教師も週に一度、外に出て児童と一緒に遊ぶ取り組みを継続したことで、学校全体の約74%の児童が休み時間に外遊びをしている、まあまあしていると回答した。しかし、夏の暑さ等で80%には至っていないので、後期は、イベント等を企画して外遊びや運動を推奨していきたい。運動週間の時間については、全国体力調査の結果が分かり次第、評価する予定である。	A	・授業以外でも、78%の児童が運動やスポーツを行っていると回答している。 ・継続して教師も週に一度、外に出て児童と一緒に遊ぶ取り組みを継続したり、スポーツ祭り等の企画をしたことで、学校全体の約83%の児童が休み時間に外遊びをしていますかの質問に「よくあてはまる」「あてはまる」と回答した。徐々に運動をしたり、遊んで体を動かしする習慣が身に付いてきている。	A	・県教育委員会から体力向上・運動能力向上に対して優良校を受賞し、これまでの学校の取り組みが評価されたと感じる。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・定時退勤日を毎週金曜日、第3水曜日と明確に設定し、意識して実践できるような取組を行う。 ・学期毎に学校運営や業務に関する振り返りを行い、業務の改善、課題の早期解決に努める。	B	・掲示板の利用により職員連絡会の時間を短縮し、放課後に事務処理の時間や教材研究する時間を確保できた。 ・学校評価アンケートにおいて、業務改善を意識して定時退勤日は早く退勤するように心がけている職員の割合は73%である。まだ、四分の一の職員はできていない状況であるので、教職員の健康の保持や質の高い教育を提供できるように時間外在校時間を減らしていく。	A	・学校評価アンケートにおいて業務改善を意識し、早く退勤することを心がけている職員の割合は、「よくあてはまる」「あてはまる」で100%であった。また、今年度は、時間外在校等時間が45時間を超える職員は6月以降0人であった。時間外在校等時間を減らしているという意識が高まっている。	B	・先生方が素晴らしい授業を行い、子ども達と笑顔で接することができるように、今後も時間外在校等時間を減らし、健康で生き生きと教育活動を行ってほしい。
●特別支援教育の充実	○特別支援教育に関する教員の専門性と意識の向上	○個別支援計画・指導計画の作成方法の理解が深まったと回答した教員80%以上	・個別的教育支援計画・指導計画を作成する意義を伝え、具体的な書き方の例を提示し、7月の個人懇談までに作成してもらい、必要に応じてアドバイスをを行う。	A	・個別的教育支援計画・指導計画の前期分の作成は、全員7月の個人懇談までに作成してもらい、保護者と内容について話し合ってもらったことができた。個別的教育支援計画は、保護者や関係機関と一緒に作り、支援をしていくという意識を深めることができた。後期目標や評価についても意義や具体的な書き方を示しながら、教員の専門性を高めていく。	A	・個別支援計画・指導計画の作成方法の理解が深まったと回答した教員80%以上を達成することができた。個別に支援をしていくためには、児童の実態、家庭環境を十分把握し、本人に合った短期目標や長期目標を設定していくことで、日々の支援にも意図をもって取り組む姿が見られている。	A	・子どもたち一人一人の様子をしっかりと理解し、一人一人に合った教育活動を行っていたいので、安心してほしい。 ・子どもたちの為に工夫した教育活動を行っていると感じる。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目									
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
○あいさつレベルアップ	○さわやかあいさつプロジェクト	○「笑顔であいさつ さわやか西小っ子」の合い言葉のもと、「自分からすすんで」「笑顔で」「元気な声で」あいさつができる児童が増えたと振り返る児童の割合80%を目指す。	・具体的なあいさつのレベル「自分からすすんで」「笑顔で」「元気な声で」を児童に示し、意識化を図る。生活アンケートに「あいさつについて振り返りする項目を入れ、実態把握に努める。	A	・生活アンケートを実施結果より、昨年度と比較すると、「自分からすすんで」「笑顔で」「元気な声で」の3つの項目とも、「よくできた」との回答割合を増やすことができた。後期も継続して意識化を図っていく。	A	・児童の振り返り結果をみると、「自分からすすんで」「笑顔で」「元気な声で」の3つの項目とも、前年度の結果を上回ることができた。特に、「自分からすすんで」「元気な声で」の2項目は「よくできた」が前年度を8ポイント上回っており、十分な達成度合いであった。あとは地域でのあいさつができるよう意識づけを図っていく。	B	・「さわやかあいさつプロジェクト」では、校長先生や先生方の気持ちのよい朝のあいさつで子どもたちも元気いっぱいだと感じる。楽しい学校生活が過ごせていると思う。しかし、地域では声が小さいので、地域でも学校で行っているあいさつができるようになってほしい。

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	・「縦割り掃除や縦割り遊び」で、他の学年の友達と協力して活動し、上級生も下級生も互いに相手を思いやる心が育っている。 ・「自分から進んで」「笑顔で」「元気な声で」を合言葉に、あいさつができる児童が増えている。今後も、地域でのあいさつができるよう意識づけを図っていく。 ・落ち着いた1日をスタートしたり授業に集中したりすることができるように朝読書を取り入れていく。また、基礎基本の学力向上を目指し、タブレット端末を使って、ドリル問題を解く時間を設定したり家庭学習に活用したりして習熟を図っていく。
--------------------	---